

7. 水源地域動態

7. 水源地域動態

7.1 評価の進め方

7.1.1 評価方針

水源地域動態の評価は大きく2つの流れにより評価を行う。1つは、地域との関わりという点で、ダム建設から管理以降、現在までのダム事業を整理するとともに、地域情勢の変遷を整理し、地域においてダムがどのような役割を果たしてきたか、今後の位置づけはどのように考えていくべきかなどの評価を行う。

もう1つの流れとして、ダム周辺整備事業とダム及びダム周辺の利用状況から評価を行うものである。ダム周辺に整備された施設などが十分に利用されているものとなっているか、又は逆に利用状況から見た施設は十分なものとなっているかなどの評価を行う。

最後にこれらをまとめ、ダム及びダム周辺の社会的な評価の総括を行い、課題等について検討する。

7.1.2 評価手順

水評価方針のとおり大きく2つの流れにより評価を行いとりまとめることにする。評価作業の手順は、図7.1-1に示すとおりである。

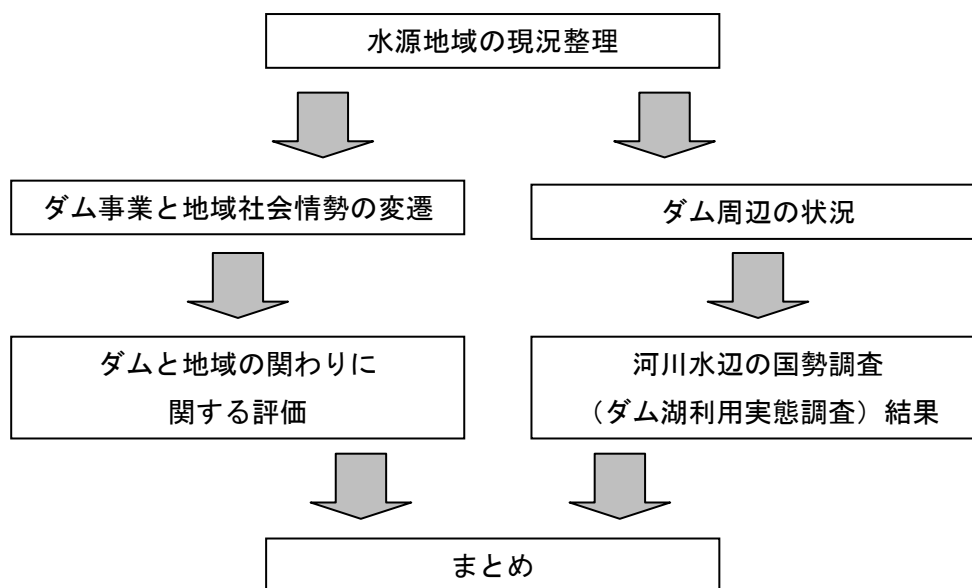


図 7.1-1 水源地域動態の評価の手順

(1) 水源地域の概況整理

水源地域の地勢や人口等の概要、交通条件や観光施設等のダムの立地特性等の視点から水源地域の概況を把握する。

(2) ダム事業と地域社会の変遷

周辺地域の社会情勢、地域の交流活動・イベント等についてダム事業の経緯とともに変遷を年表形式で整理し、ダム事業と地域社会の係わりを把握する。周辺地域の社会情勢、地域の交流活動・イベント等は、ダムの影響とまでは言えないまでも関連がありそうな事項を抽出する。これらのまとめにより、ダムを含めた水源地域としての地域特性を把握する。

(3) ダムと地域の関わり

ダムと地域との関わりとして、(2)をもとに、「地域に開かれたダム」や「水源地域ビジョン」等も参考にしながら、地域におけるダムの位置づけについて考察を行う。

さらにダム管理者と地域の関わりとして、至近 5 ヶ年程度のダム管理者と地域の交流事項等について整理し、ダム管理者の活動等について評価する。

(4) ダム周辺の状況

ダムの周辺環境整備計画を整理するとともに、現況の整備状況について整理を行い、加えて、「地域に開かれたダム」や「水源地域ビジョン」により新たに整備された施設等についても整理する。

なお、原則は「水源地域対策特別措置法」で整備した施設等は評価対象としないが、ダム事業と一体となって整備した施設等は含めることとする。

また、施設入り込み数、イベント開催状況等から周辺の利用状況を整理し、利用に関する評価を行う。

(5) 河川水辺の国勢調査(ダム湖利用実態調査)結果

河川水辺の国勢調査(ダム湖利用実態調査)結果より、ダム周辺施設の年間利用者数、利用形態等についても整理する。また、アンケート調査結果から、利用者がどのような感想をもっているかについても整理し、利用者の視点からのダム周辺施設(環境整備)の評価を行う。

(6) その他関連事項の整理

水源地域の社会動態に関する既往検討資料、または景観検討資料、施設の維持管理に関する検討資料等、関連する資料があれば整理する。

(7) まとめ

以上より、地域とダムの関わり、ダムの利用状況に関する評価結果をまとめ、ダムの特

徴、課題等について整理する。また、負の評価結果となった事項があれば、これらについて要因を整理し、極力改善策等の提案についてとりまとめるものとする。

7.2 水源地域の概況

7.2.1 水源地域の概要

(1) 地域の概要

淀川水系は、近畿地方の中央部に位置し、琵琶湖から瀬田川、宇治川となって流下し、南から木津川、北から桂川と合流して淀川本流となって大阪平野を南西に流れ、大阪湾に注ぐ流域面積 8,240km²の大水系である。

宇治川の上流は瀬田川と呼ばれ、日本最大の湖である琵琶湖から流出する唯一の河川である。瀬田川洗堰の直下流で、大戸川を合わせ鹿跳に至り大石川・信楽川が合流し、京都府に入ると宇治川と呼ばれる。さらに天ヶ瀬ダムから宇治市を経て山城盆地を流下し、八幡市に至る。ここで宇治川・桂川・木津川の三川が合流して淀川となり、大阪平野を流下して大阪湾へと注いでいる。

天ヶ瀬ダムは洪水調節、水道用水の補給、発電を目的とした多目的ダムであり、淀川の本川である宇治川に位置している。

天ヶ瀬ダムの流域面積の全体は 4,200 km²であり、その内、ダム直接流域の面積が 352 km²、琵琶湖の流域面積(瀬田川洗堰地点)が 3,848km²である。(図 7.2-1 参照)

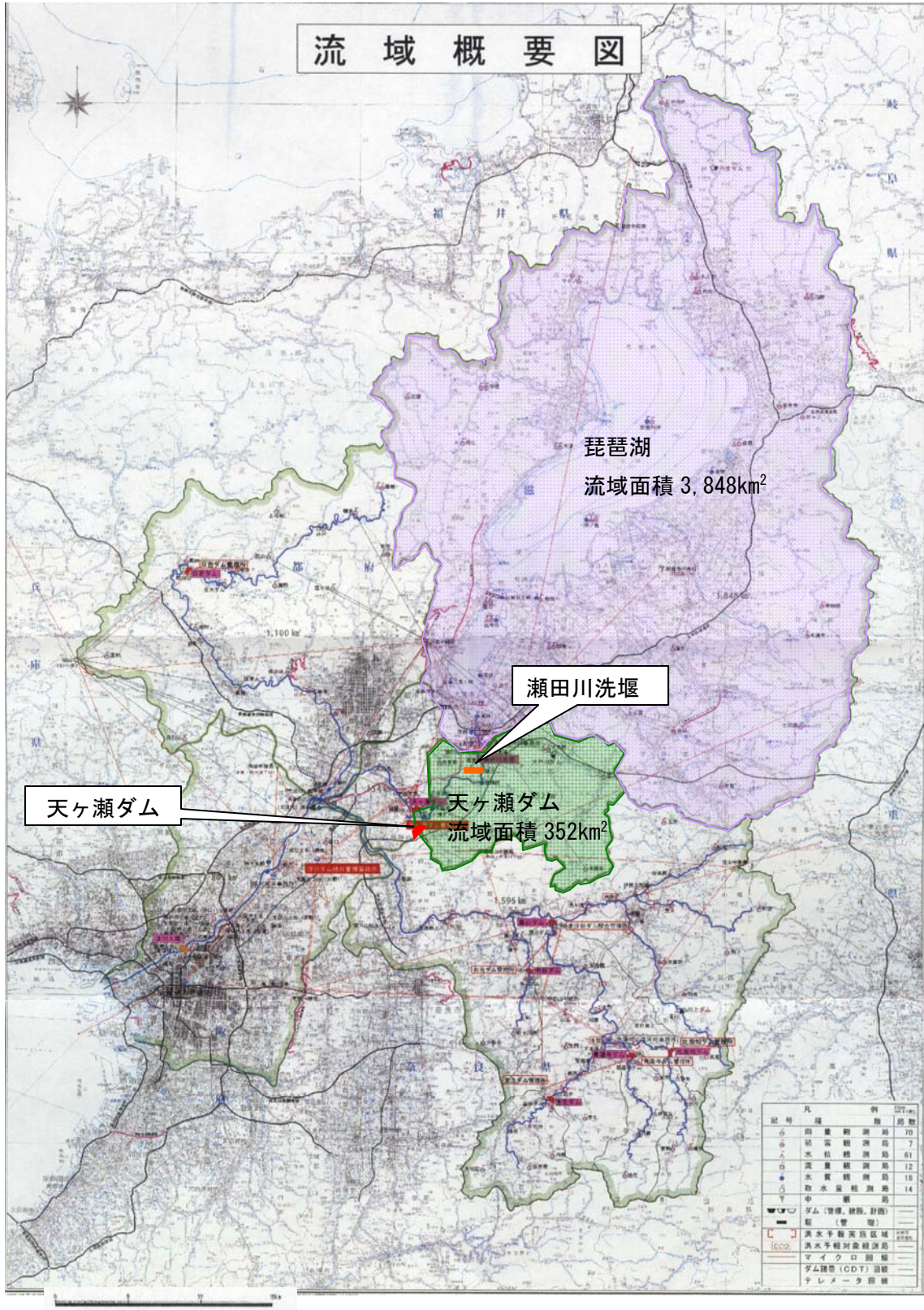


図 7.2-1 淀川流域概要図
出典：資料 7-1

(2) 水源地域の概要

天ヶ瀬ダム周辺地域は、京都・奈良の中間地点に位置することから、早くから居住が進んだ地域である。世界で3番目に古い湖と言われる琵琶湖周辺では、縄文時代には人の営みが行われていたことが湖底遺跡等から推察される。

大津市の南部地区は、滋賀県でも最も人口が集中している地区であり、東海道の要衝として栄え、また琵琶湖・淀川の水運と連携することで、交流の拠点として古くから重要な役割を果たしてきた地区である。

宇治市域は、646年に宇治橋が架橋され古代から交通の要衝として発展した地域である。また都に近く風光明媚な地区であったことから、平安時代には貴族の別荘地として栄え、源氏物語宇治十帖の主要な舞台になるなど、王朝文化の一翼を担った地域であった。天ヶ瀬ダムから約2km下流の塔の島地区周辺には、寺社等の史跡が広く分布し、特に藤原頼通が建立した平等院や、現存する最古の神社建築とされる宇治上神社等は共に世界遺産に指定されている。

宇治田原町一帯は、奈良～平安時代に仏教修学の一大拠点として栄え、金胎寺(鷲峰山上、和東町内)をはじめ医王教寺、山滝寺などの寺院が次々に建立され、禅定寺も正暦2年(991年)に創設された。都に近いことからしばしば争乱の舞台となる中で社寺仏閣は荒廃していったが、江戸時代には一帯が宮廷の禁裏御料となり、栗や松茸を豊富に産し、上方の副産物類の主産地となった地区である。また、湯屋谷の茶業家永谷宗七郎(宗円)が煎茶の近代製法を考案したことで、お茶の一般化・大衆化が進み、緑茶発祥の地としての伝承が残されている地区である。



図 7.2-2 天ヶ瀬ダム下流周辺の概要図

地域周辺の特徴的な地場産業として、宇治茶の生産があげられる。宇治茶は全国的なブランドとなっており、宇治田原町には日本茶発祥の地としての伝承が残されている。

宇治市・宇治田原町のそれぞれの茶園面積(ha)・生産量(t)の推移を表 7.2-1 に示す。

表 7.2-1 茶園面積・生産量

茶園面積・生産量		H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
宇治市	茶園面積(ha)	78.9	79.0	79.0	79.1	79.1	79.4	77.6	77.6	77.4	76.2	77.3
	生産量(t)	63.8	60.1	61.5	55.7	61.9	61.1	64.3	64.1	65.7	63.6	66.5
宇治田原町	茶園面積(ha)	232.6	232.6	232.9	233.3	234.2	235.2	259.4	272.6	272.9	258.0	—
	生産量(t)	318.1	330.2	340.4	308.4	261.1	268.8	297.6	260.8	272.4	340.7	—

※宇治田原町統計書（H26年版）のデータはH24までのため、H25は記載していない。

出展：資料 7-2、資料 7-3

(3) 水源地域の人口、産業別就業人口の推移

ダム竣工前（昭和30年（1955年））からの人口推移をみると、大津市で約3倍、宇治市で約4.7倍、宇治田原町では約1.2倍となっており、人口が増加しているが、一方、旧信楽町は、概ね14,000人であり、ほぼ横ばいになっている。図7.2-3に人口推移図を示す。

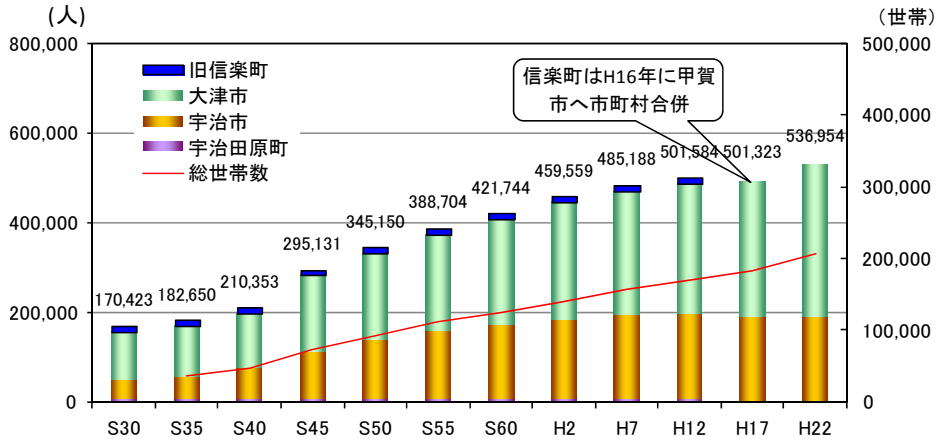


図 7.2-3 水源地域の人口推移図

出典：総務省国勢調査結果 ※旧信楽町は国勢調査を実施していないため、平成17年はグラフ化していない。

(4) 産業・就業者数

産業別就業人口比率と水源地域の人口を図7.2-4に示す。産業別就業人口比率は、第3次産業が大幅に増加し、第1次、第2次産業は減少傾向となっている。

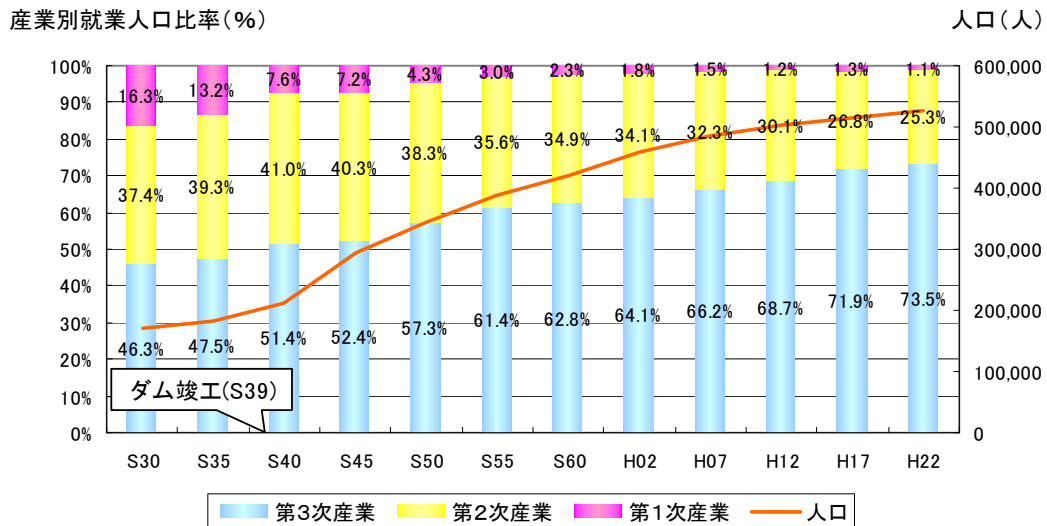


図 7.2-4 水源地域の産業別就業人口比率推移図

出典：総務省国勢調査結果

7.2.2 ダムの立地特性

(1) 天ヶ瀬ダム下流の状況

天ヶ瀬ダムの下流 2km は、世界文化遺産である平等院や宇治上神社、石塔（国の重要文化財）が建立されている塔の島などがある宇治市の観光の中心となっており、近くには鉄道駅（JR 宇治駅、京阪宇治駅）もある。

なお、宇治川の水は、琵琶湖の瀬田川洗堰上流で取水され、宇治発電所導水路を通じて宇治発電所で発電された水が、塔の島付近で放流されている。低水時における宇治川の流量は、宇治発電所の放流により、この地点から大きく増加している。

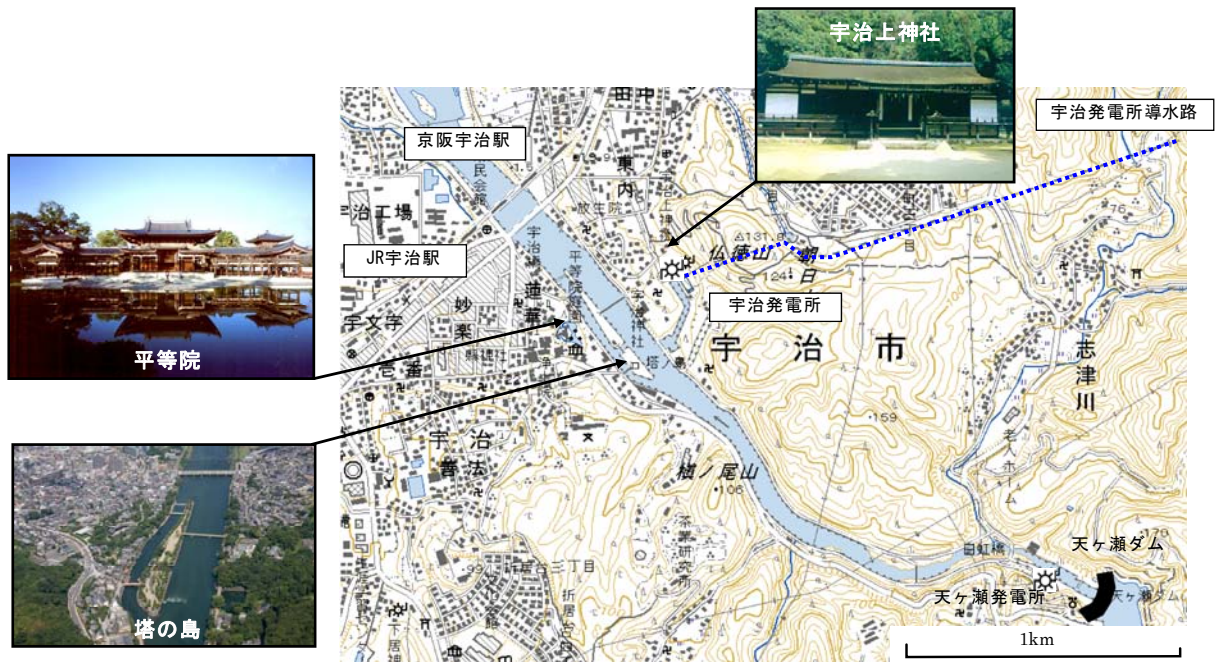


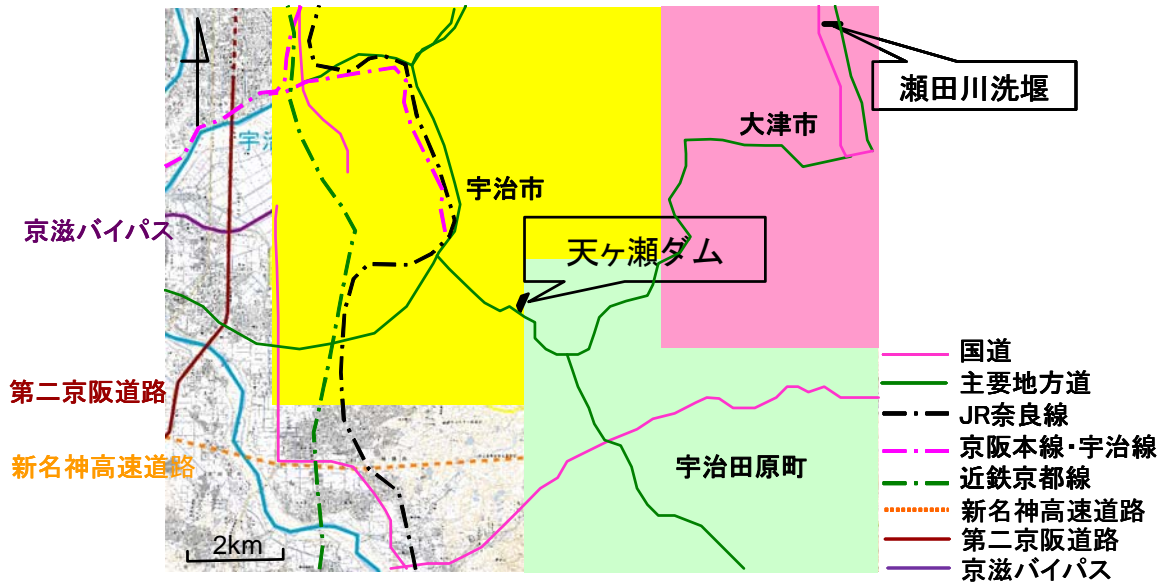
図 7.2-5 天ヶ瀬ダムの下流の状況

(2) 水源地域へのアクセス

宇治市・大津市・宇治田原町は、それぞれ府（県）道3号、62号、783号等により連絡されている。当該地域では、京滋バイパスや新名神高速道路（一部供用開始）など、広域的な道路ネットワーク整備が進められている。

宇治田原町内においては、新名神高速道路のI.C.整備が計画されている。

また、宇治川沿いに走る宇治川ライン（府県道3号）は、宇治市と大津市とを連絡する道路であるが、途中に立ち寄りポイントがあまりないことなどから、通過交通が比較的多い道路となっている。



※図中点線は計画路線 ※国土地理院1/25,000地形図使用

図 7.2-6 水源地域の立地特性図

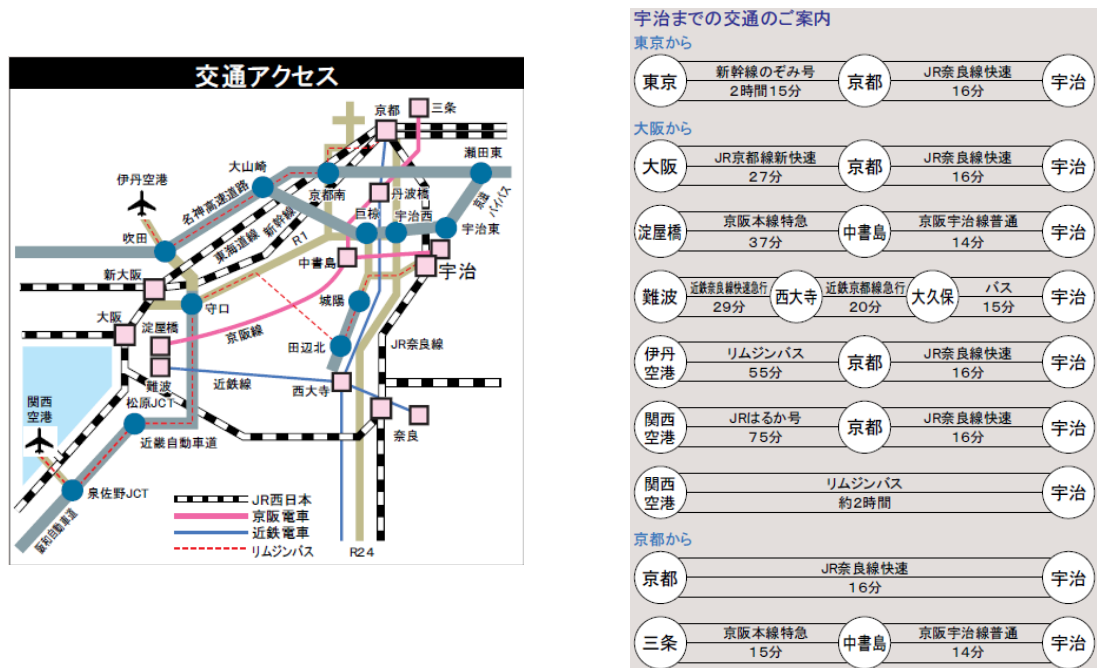


図 7.2-7 宇治までの交通アクセス

出典：資料 7-3

(3) 天ヶ瀬ダムへのアクセス

JR 宇治駅から天ヶ瀬ダムへは、約 3.8km あり車で約 10 分、徒歩で約 50 分かかる。京阪宇治駅からは天ヶ瀬ダムは、約 3.3km あり車で約 10 分、徒歩で約 40 分かかる。

天ヶ瀬ダムには、来場者用の駐車スペースが確保されていない。また、バス路線などの公共交通機関もないため、宇治市街地から天ヶ瀬ダムへのアクセスには恵まれていない。

なお、宇治市街地も駐車場が不足しており、行楽シーズンには路上駐車や渋滞も発生している。そのため、行楽シーズンにおける渋滞緩和などのために平成 18 年から天ヶ瀬ダム下流に臨時駐車場（平等院から約 2km）を設ける試みも行われている。



図 7.2-8 天ヶ瀬ダムへのアクセス

天ヶ瀬ダム近く 臨時駐車場開設

秋の観光シーズンで4日から



秋の観光シーズンを迎え、宇治市街地から天ヶ瀬ダムへ向かう観光客が増える中、路上駐車や渋滞が深刻化している。そこで、宇治市は、天ヶ瀬ダム下流に臨時駐車場を開設する。臨時駐車場は、宇治市街地から約2km離れた平等院から約2km離れた場所に開設する。臨時駐車場の開設は、平成18年から行われており、今年も11月1日から11月4日まで開設する。臨時駐車場の開設は、路上駐車や渋滞を解消し、観光客の利便性を高める。臨時駐車場の開設は、平成18年から行われており、今年も11月1日から11月4日まで開設する。臨時駐車場の開設は、路上駐車や渋滞を解消し、観光客の利便性を高める。

マイカー対策 150台分 路上駐車や渋滞解消へ

秋の観光シーズンを迎え、宇治市街地から天ヶ瀬ダムへ向かう観光客が増える中、路上駐車や渋滞が深刻化している。そこで、宇治市は、天ヶ瀬ダム下流に臨時駐車場を開設する。臨時駐車場は、宇治市街地から約2km離れた平等院から約2km離れた場所に開設する。臨時駐車場の開設は、平成18年から行われており、今年も11月1日から11月4日まで開設する。臨時駐車場の開設は、路上駐車や渋滞を解消し、観光客の利便性を高める。臨時駐車場の開設は、平成18年から行われており、今年も11月1日から11月4日まで開設する。臨時駐車場の開設は、路上駐車や渋滞を解消し、観光客の利便性を高める。

図 7.2-9 新聞記事（京都新聞, H11年11月1日）

7.3 ダム事業と地域社会情勢の変遷

図 7.3-1 ダム事業の経緯

年 月		事 業 内 容
昭和 28 年	9 月	13 号台風出水が淀川に未曾有の大洪水をもたらし、天ヶ瀬ダム等による洪水調節を取り入れた、淀川の治水計画改定の契機となる。
昭和 29 年	12 月	河川審議会において、天ヶ瀬ダム等による洪水調節を根幹とする「淀川水系改修基本計画」が決定され、ダム建設の運びとなる。
昭和 30 年	10 月	ダムサイトの地質調査に着手。
昭和 31 年	7 月	発電を含めた、開発計画の大綱が決定される。
昭和 32 年	4 月	建設事業に着手。天ヶ瀬ダムエ事事務所を開設。
昭和 33 年	2 月	ダム型式をアーチ式コンクリートダムに決定。
昭和 34 年	2 月	洪水調節と発電を目的とした「天ヶ瀬ダムの建設に関する基本計画」を告示。
昭和 35 年	10 月	ダムサイトの地質調査完了。
昭和 36 年	1 月	ダム本体の掘削工に着手。
昭和 37 年	3 月	ダム本体の掘削を完了し、減勢池のコンクリート打設開始。
	6 月	志津川発電所を廃止して天ヶ瀬発電所を増量し、ダム建設に上水道を加えるための「天ヶ瀬ダムの建設に関する変更基本計画」を告示。
	8 月	ダム本体コンクリートの打設開始。
	10 月	定礎式（10 月 16 日）。
昭和 39 年	3 月	堤内仮排水路を閉塞し、試験湛水を開始。
	9 月	ダム本体コンクリートの打設完了。
	11 月	天ヶ瀬ダム・天ヶ瀬発電所竣工式を挙（11 月 26 日）。
		放流警報設備運用開始。
12 月	宇治浄水場が一部給水開始。	
昭和 40 年	3 月	試験湛水を完了（常時満水位 EL78.50m 達成）。
		天ヶ瀬ダム工事事務所を廃止。
	4 月	天ヶ瀬ダム管理所を設置し管理に移行。
	9 月	台風 24 号が襲来し、最大流入量 1,530m ³ /s を記録。ダム完成後最初の洪水調節を実施。

出典：資料 1-13

7.4 ダムと地域の関わりに関する評価

7.4.1 地域におけるダムの位置づけに関する整理

(1) 天ヶ瀬ダムの目的

天ヶ瀬ダムは、洪水調節・水道用水・水力発電を目的とする多目的ダムである。

表 7.4-1 天ヶ瀬ダムの目的

目 的	内 容
①洪水調節	天ヶ瀬ダムの洪水調節計画は、計画高水量 1,360 m ³ /s のうち 520 m ³ /s を調節し、放流量 840 m ³ /s に調節することで、下流宇治川の氾濫による被害低減を図る。さらに、下流枚方地点のピーク時には、放流量を 160 m ³ /s に調節し、淀川本川下流域の被害低減を図る。
②水道用水 (京都府営水道)	京都府営水道の水源として最大 0.3 m ³ /s (現在、暫定豊水利水を含め最大 0.9 m ³ /s) を取水している。なお、山城水道は宇治市、城陽市、八幡市、久御山町の給水人口約 36 万人に給水している。暫定豊水利水とは、豊水時に暫定的に利水を許可する流量をいう。
③水力発電	天ヶ瀬発電所は、天ヶ瀬ダムから最大 186.14 m ³ /s を取水し、最大有効落差 57.1m を利用して最大出力 92,000kW を得る水力発電所である。また、喜撰山発電所は、天ヶ瀬ダム貯水池を下部調整池とする揚水発電所であり、最大使用水量 248 m ³ /s、総落差 227.4m を利用して最大出力 466,000kW を発電している。

(2) 天ヶ瀬ダム水源地域ビジョン

天ヶ瀬ダムでは、水源地域である京都府宇治市、宇治田原町、滋賀県大津市を対象地域として、関係行政機関、地元組織、関係団体、ダム管理者等からなる『天ヶ瀬ダム水源地域ビジョン策定検討会』により、平成 17 年 1 月に「天ヶ瀬ダム水源地域ビジョン」が策定されている。

天ヶ瀬ダム水源地域ビジョンでは、『永い歴史と豊かな文化が溶け込んだ水と緑の豊かな生活環境を目指して』を基本理念として、「自然環境の保全」「地域活性化」「広域な連携と交流」という 3 つのテーマからなる行動計画が定められている。

なお、平成 23 年度には「天ヶ瀬ダム水源地域ビジョン推進連絡協議会委員会」を開催し、取り組み内容の報告、今後の取り組みへの提案、意見交換等を行っている。

テーマ 1 自然環境保全

「地域が有する森林や水辺などの自然環境の永続的な保全と育成」

テーマ 2 地域活性化

「2市1町の歴史、文化・産業等の特性を活かした活性化」

テーマ 3 広域な連携と交流

「河川を軸とした流域の相互連携・交流ネットワークの形成への配慮」

天ヶ瀬ダムでは水源地域ビジョンの基本理念を以下のとおりとして、ダム水源地の自治体、住民等と共同し、ダムを活かした水源地域の自立的、持続的な活性化を図っている。

『永い歴史と豊かな文化が溶け込んだ
水と緑の生活環境を目指して』

この基本理念に沿った基本的な3テーマとその取り組み内容を示す。

テーマ1：地域が有する森林や水辺などの自然環境の永続的な保全と育成

- 森林資源保全への取り組みの推進（水源林の保全）
 - ・ 国定公園、風致地区、保安林指定などの遵守
 - ・ 森林、緑地の保全、育林、植林の実施
 - ・ 田園風景の保全と形成の取り組み
 - ・ 森林施業の基盤整備（林道整備の推進など）
 - ・ 山林オーナー制度の取り組み検討
- 河川環境の保全にむけた取り組みの推進
 - ・ 天ヶ瀬ダム再開発事業の推進
 - ・ 河川改修の推進と維持管理（宇治川下流部）
 - ・ 流入支川の河川環境の保全、創出
- 継続的な保全活動の展開に向けた取り組みの推進
 - ・ 環境保全計画の推進
 - ・ 既往の環境保全活の継続や新たな自然愛護活動の実施
 - ・ 地元のボランティア組織及び関連施設の整備検討

テーマ2：2市1町の歴史、文化、産業などの特性を生かした活性化

- 地域資源の活用による観光、交流活動の活性化（共同開催のイベント）
 - ・ 歴史的、文化的資源を活用したソフト施策
 - ・ 水辺空間を活かしたイベント等の企画、検討
- 地域産業の振興と活用に向けた取り組みの展開
 - ・ 宇治茶の生産を活用とした活動
 - ・ 林業振興における間伐材の活用
 - ・ 柿の特産品生産を活用した活動
- 交流の場の整備、創出の検討
 - ・ 天ヶ瀬森林公園の整備推進
 - ・ 既存施設の活用、拡充
 - ・ 生涯学習、総合学習の時間等との連携強化
 - ・ グリーンツーリズム等への対応
 - ・ ダム資料館、河川事業など広報スペースの整備

テーマ3：河川を軸とした流域の相互連携、交流ネットワークの形成

- 河川軸や道路軸を活用した地域連携軸の形成
 - ・ ダム湖や宇治川沿いの動線や拠点の整備検討
 - ・ 国道422号、大津南郷宇治線に沿った広域ネットワーク機能の拡充
 - ・ 歴史街道計画の推進
- 新たな交流ネットワークの展開への取り組み、検討
 - ・ 新しい広域型の集客についての調査研究
 - ・ 新しい名所の創出への取り組み
- 情報の共有、連携による地域の一体的な活性化の推進
 - ・ イベント情報の提供、発信の取り組み
 - ・ 観光ボランティアの育成、支援
 - ・ 地域の活性化に向けた地域検討会、シンポジウムなどの共同開催
 - ・ 水源地域コミュニティ誌発刊の検討

出典：資料 7-6

天ヶ瀬ダムでは3つのテーマごとに示した取り組みにかかる様々な活動を実施し、水源地域ビジョンの実現を目指している。取り組みの実施例を以下に示す。

テーマ1：地域が有する森林や水辺などの自然環境の永続的な保全と育成

- ・ダム湖岸の緑化試験、ボランティア（フォレストアージュ）と連携した苗木づくり
- ・事業推進中（白虹橋付替、トンネル工事）
- ・大石地区のオギ原の再生
- ・外来種駆除計画、湖岸緑化対策計画
- ・瀬田川リバプレ隊

テーマ2：2市1町の歴史、文化、産業などの特性を生かした活性化

- ・天ヶ瀬ダム、宇治浄水場等見学ツアーの開催（H23～）
- ・大石地区での「大石かわべ物語」「大石川調査隊」の企画・運営（H23～）
- ・森づくりボランティアと連携した森づくり活動の支援
- ・宇治市歴史資料館を活用した写真展（H26）
- ・ダムサイトでの広報活動
- ・観光ツーリズム勉強会の開催（H26）
- ・中学校の職場体験学習

テーマ3：河川を軸とした流域の相互連携、交流ネットワークの形成

- ・報道発表によるイベント情報の発信
- ・宇治観光ボランティアクラブの育成・協働イベント開催
- ・観光ツーリズム勉強会の開催（H26）



大井市川辺物語（自然観察会、ミニイベントの開催）



大石川調査隊

図 7.4-1(1) ビジョン実現のための活動事例



天ヶ瀬ダムツアーの開催



中学校の職場体験学習
図 7.4-1(2) ビジョン実現のための活動事例

(3) 水源地域ビジョンの進め方

天ヶ瀬ダム水源地域ビジョン推進連絡協議会により、ビジョンに沿った施策の検証と展開を検討している。

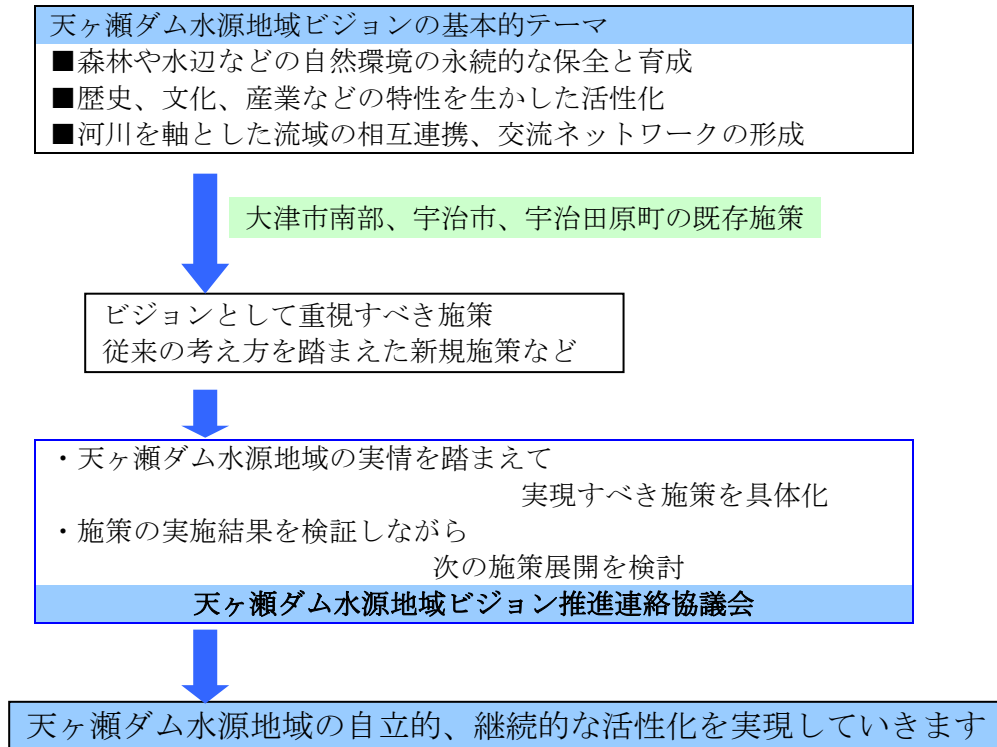


図 7.4-2 水源地域ビジョンの進め方

出典：資料 7-6



図 7.4-3 水源地域ビジョン推進連絡協議会会議状況



図 7.4-4 水源地域連絡協議会のイメージ

出典：資料 7-6

7.4.2 地域とダム管理者の関わり

(1) ダム見学者数

天ヶ瀬ダムには、年間約 3.6 万人が見学に訪れている。また、中学生の職場体験の場として利用されている。

最近の数年は、天ヶ瀬再開発事業に伴う工事の影響もあって、見学者数が減少傾向にあり、平成 25 年度に 2 万人を下回った。しかし、ダム竣工 50 周年の平成 26 年度は 2.2 万人台に増加した。

宇治十帖スタンプラリーが実施されている 10 月～11 月に見学者が多くなる傾向がある。

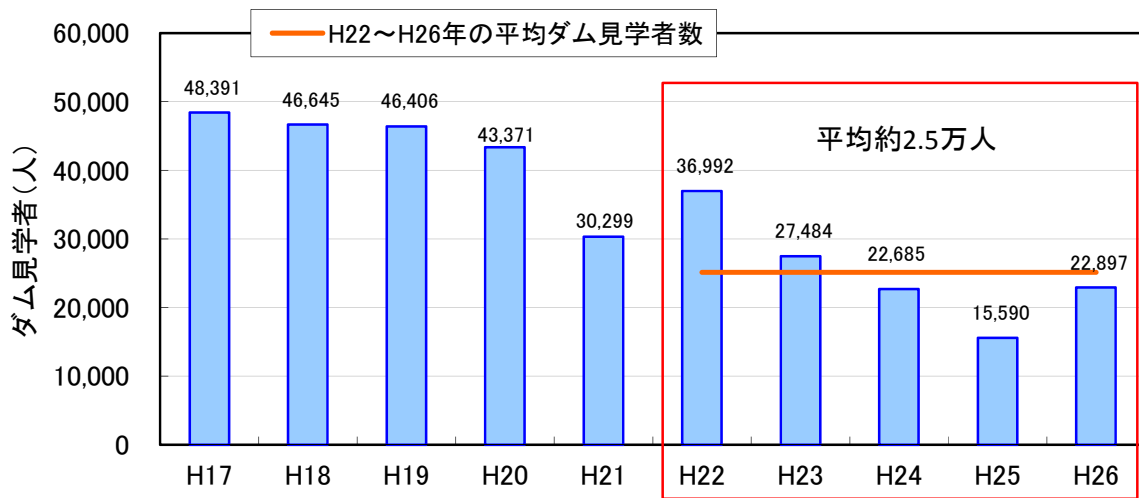
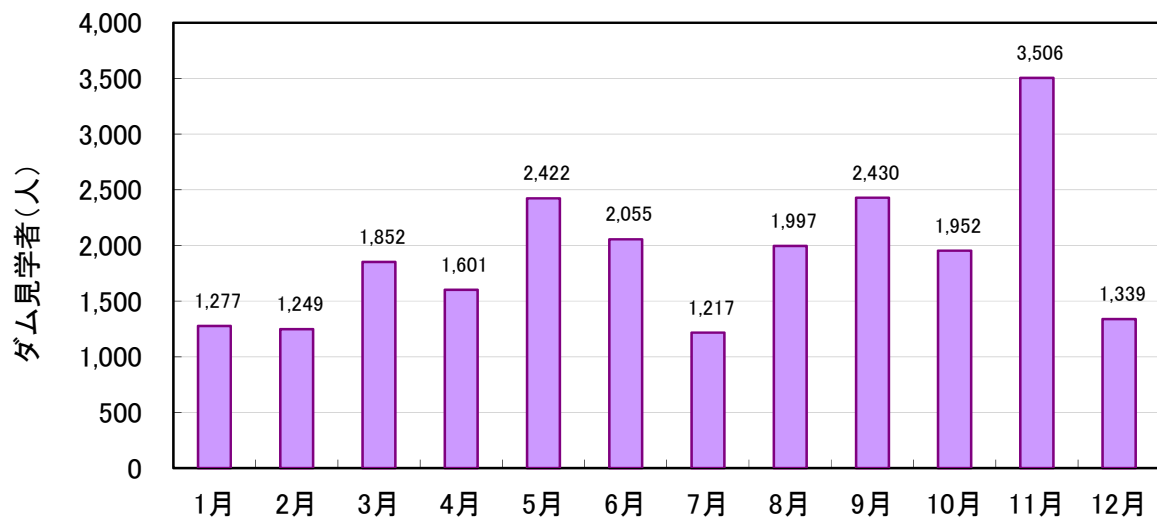


図 7.4-5 ダム見学者数の経年変化



※人数は、ダムサイト入口に設置されている感知センサーによる値

図 7.4-6 月別ダム見学者数の推移（平成 26 年）

出典：平成 26 年入場者数合計表（淀川ダム統合管理事務所）



天ヶ瀬ダムの役割について



ダム本体の点検



ダム本体の点検



漏水量調査



簡易水質試験



生物調査

図 7.4-7 中学生の職場体験

出典：淀川ダム統合管理事務所ホームページ記者発表資料

表 7.4-2 中学生職場体験の参加人数

平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
6 校 23 名	7 校 34 名	6 校 32 名	6 校 29 名	7 校 25 名

出典：職場体験学習実施状況一覧表(淀川ダム統合管理事務所)

ダム管理しかと拝見

西宇治中の2年生

職場体験で点検管理に一役

◆宇治市立西宇治中学校(川嶋浩司校長)の2年生を対象にした職場体験で、人の男子生徒が天ヶ瀬ダム(宇治市宇治金井戸、荒木道男・管理支配長)を訪れ、ダムの特徴設備や電気、堤体や抵抗の点検活動を体験した。

◆天ヶ瀬ダムは1964年11月に完成。宇治川、荒川への洪水量抑制や都市用水



薄と結果を記入した。

供給などの役割を果たしている。事前打ち合わせでダムの歴史や機能、日常業務などの説明を受け、23日からは管理業務を見学。24日はヘルメットに長靴姿で点検業務に出発した。

◆荒木所長らの案内でダム堤体の階段を降りた生徒たちは、各ポイントや横溝内に設けたゲージで漏水状態のチェックを実施。点検記録簿と結果を記入した。

◆ダムに流れ着く多量の雑木、腐葉ごみなどは極閉閉け頃と台風シーズンを終えた頃に回収しているが、回収に要する費用は年間数百万円にも及ぶことを聞き、気づいたことをノートに記入した。

◆参加したリーダーの小林一輝君は「思っていた以上にダムが大きい。ダム湖の水の色が汚かった」と感嘆。「普段入れないところにも行けたし、すごく勉強になった」と話していた。

◆宇治市内では東宇治、宇治、西小倉北宇治の各中学校の生徒たちが7月にかけて相次いで天ヶ瀬ダムを訪れ、ダム本体の点検作業などを行なう予定だ。

【四本幸二】写真は天ヶ瀬ダムの堤体に設けたゲージで漏水状態を定点観測を体験する西宇治中の生徒たち

(H25. 5. 25 洛南タイムス)

図 7.4-8 職場体験に関する新聞記事

(2) 住民協働事業

天ヶ瀬ダムでは、新たなダム管理の取り組みとして、平成 23 年度から住民協働によるダム(流域)管理に取り組んでいる。

1) 宇治観光ボランティアガイドクラブとの協働

① 協働の背景

- 天ヶ瀬ダムの下流約 2km は、世界文化遺産である平等院や宇治上神社、石塔（国の重要文化財）が建立されている塔の島など宇治市の観光の中心であり、近くには鉄道駅（JR 宇治駅、京阪宇治駅）もある。
- 天ヶ瀬ダム来訪者の多くは休日の来訪者である。
- 一方で、ダム職員による案内は平日のみ、しかも、事前予約が必要などの制約があり広報上の課題であった。
- 宇治市としても天ヶ瀬ダムは是非とも活用したい観光資源であった。

② 協働の目的

- 天ヶ瀬ダムを広く国民に知っていただき、あわせて、観光資源として地元を活用していただくことで上下流交流の促進をはかること。
- そのための手法として、淀川ダム統合管理事務所と宇治観光ボランティアガイドクラブが協働事業に取り組んだ。

③ 協働の内容

- 淀川ダム統合管理事務所は、ボランティアガイドクラブに対し研修会を実施し、天ヶ瀬ダムや淀川流域に関する情報を提供する。
- ボランティアガイドクラブは、宇治を訪れる旅行者を案内する際に、研修会などで得た知識を活用する。

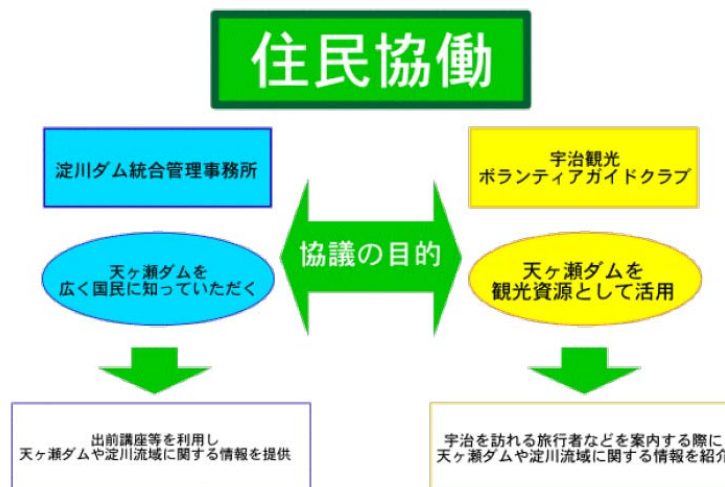


図 7.4-9 協働の内容

④ 協働に向けた取り組み

平成 22～23 年度に、ボランティアガイドクラブに対して研修会を実施し、天ヶ瀬ダムや淀川流域に関する情報を提供するとともに、平成 23 年度よりボランティアクラブとの協働で天ヶ瀬ダムや天ヶ瀬発電所、宇治浄水場等の見学ハイクを実施している。

また、平成 26 年度は、天ヶ瀬ダム竣工 50 周年記念として、ウォークツアー、観光ツーリズム勉強会を実施した。

表 7.4-3 協働に向けた取り組みの実施状況

年度	実施日	取り組み内容	参加者数
平成 22 年度	2 月 24 日	見学ハイクに向けた研修会（第 1 回）	※
平成 23 年度	7 月 16 日	見学ハイクに向けた研修会（第 2 回）	※
	7 月 31 日	天ヶ瀬ダム・天ヶ瀬発電所見学ハイク	126 名
	3 月 3 日	研修会 テーマ：「琵琶湖・淀川（宇治川）の洪水の歴史と水利用について」	※
平成 24 年度	7 月 29 日（月）	天ヶ瀬ダム・天ヶ瀬発電所見学ハイク	81 名
平成 25 年度	6 月 9 日	天ヶ瀬ダム・宇治浄水場見学ハイク	47 名
	7 月 27 日	天ヶ瀬ダム・発電所・宇治市歴史資料館見学ハイク	65 名
平成 26 年度	6 月 8 日（日）	天ヶ瀬ダム・宇治浄水場見学ハイク	37 名
	7 月 26 日（土）	森と湖に親しむ旬間・やましろ未来っ子サイエンスラリー	58 名
	11 月 30 日（日）	天ヶ瀬ダム竣工 50 周年記念ウォークツアー 「みた！のぼった！おりてみた！天ヶ瀬ダムと巨大トンネル」	58 名
	2 月 22 日（日）	天ヶ瀬ダム竣工 50 周年記念 観光ツーリズム勉強会「天ヶ瀬ダムの匠な集い」	41 名

※はボランティアクラブを対象に実施したものであり、一般参加者の記録はない。



見学ハイク参加者の宇治駅集合の様子



宇治浄水場施設見学の様子



宇治川から、天ヶ瀬ダムへ移動の様子

図 7.4-10(1) 天ヶ瀬ダム・宇治浄水場見学ハイク

出典：淀川ダム統合管理事務所ホームページ記者発表資料



ゲートハウスの見学の様子(ゲートハウス ダム湖側)



減勢池、ダムサイト(下流側から)見学の様子

図 7.4-10 (2) 天ヶ瀬ダム・宇治浄水場見学ハイク(2)

出典：淀川ダム統合管理事務所ホームページ記者発表資料



宇治駅集合の様子



参加の証の「あげまき」



ガイドの方から史跡の説明を聞いている様子



つり橋を渡り、ダムを目指している様子

図 7.4-12(1) 天ヶ瀬ダム・発電所・宇治市歴史資料館見学ハイク

出典：淀川ダム統合管理事務所ホームページ記者発表資料

天ヶ瀬ダム・発電所を見学

宇治観光ボランティアクラブ 「森と湖に親しむ旬間」に呼応

宇治の見どころを巡る宇治観光ボランティアクラブ（加納誠三代表）の「見学ハイク」が27日に開かれ、「天ヶ瀬ダムと巨椋池」と銘打ったコースに宇治市内をはじめ京阪神などから65人が参加し、多目的ダムとして親しまれる天ヶ瀬ダム（宇治金井戸）の機能やダム下流に広がる宇治川畔の夏場の風情を訪ねた。

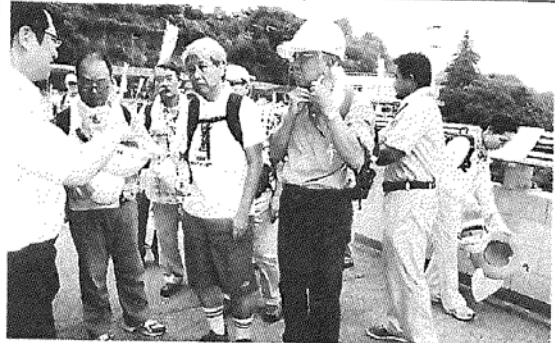
点在する見どころを線につなげて半日コースで巡る企画は、比較的ガイド利用が少ない夏や冬のオフ対策として浮上。

05年7月から「JRふれあいハイキング」の一環で企画し、コース設定には会員がアイデアを出し合い、年4回のペースで実施。事前の周到な準備、発掘調査などタイムリリーな話題にもアンテナ

を張り巡らせた市民ガイドならではのコース設定がJR沿線のイベントの中でも人気を呼んでいる。

天ヶ瀬ダムにスポーツを当てたふれあいハイクは、国土交通省近畿地方整備局の一森と湖に親しむ旬間行事に呼応し、同省淀川ダム統合管理事務所と宇治市観光協会が主催した。

JR宇治駅を集合場



所にしたふれあいハイクでは宇治川畔を巡る

ダムまでの往復約7キロコースを各班に分かれて案内した。

天ヶ瀬ダムは1953年（昭和28年）の山城大水を教訓に建設。東京五輪の年の64年（同39年）に完成し、翌年から稼働。淀川への洪水量抑制や都市用水供給などの役割を果たしている。

優美なアーチ式のコンクリートダムで、羽を広げた鳥の姿にも見えることから上流側のダム湖は「鳳凰湖」の愛称があり、右岸側は天ヶ瀬森林公園が広がる。

左岸側は府道沿いに位置し、下流側の放水口までの堤の高さは73メートル。建設以来、多くの観光客やハイカーなどが訪れる人気スポットの一つだ。

ダムにはダム式水力発電所の関西電力天ヶ瀬発電所（認可出力・最大9万2千KW）があり、参加者はダム堤頂部（通路）のダム湖側にある普段は入ることのできないゲートハウスや発電所内を興味深く見学。帰路に宇治市歴史資料館を訪ねた。

【岡本幸一】

天ヶ瀬ダムなど27日巡るツアー
宇治市観光協会と宇治市観光協会と国

土交通省淀川ダム統合管理事務所（大阪府枚方市）は、宇治川上流の天ヶ瀬ダムや関西電力の天ヶ瀬発電所を二日一環の天ヶ瀬ツアーを27日に開催する。参加者を募っている。森林やダムに親しむ「ゲートハウス」や同発電所内部を見学する。今年は巨椋池を題材にした企画展を開催中の市歴史資料館（同市折原台）も訪ねる。

午前9時～午後3時。参加無料。申し込みは当日までに宇治観光ボランティアガイドクラブ ☎0774(2)250886。

(H25. 7. 24 京都新聞)

(H25. 7. 30 洛南タイムス)

図 7.4-13 天ヶ瀬ダム・天ヶ瀬発電所見学ハイクに関する新聞記事

2) 大石地区における環境保全の取り組み

滋賀県大津市大石地区の天ヶ瀬ダム湖上流域には、豊かで多様な河川本来の自然が残されており、住民協働による環境保全を薦めるため、環境学習を計画し平成23年度より、水生生物調査（夏季）、自然観察勉強会（春季・秋季）等を実施している。

こうした取り組みを地域や小学校・PTA、NPO、河川レンジャーの皆さんとの協働で進めるため、相互理解と協働のためのパートナーシップ構築を目指している。

表 7.4-4 大石地区における環境保全の取り組み

年度	実施日	取り組み内容	参加者数
平成23年度	7月24日（日）	ふるさとの川（大石川）調査隊	100名
平成24年度	7月22日（日）	ふるさとの川（大石川）調査隊	46名
平成25年度	5月26日（日）	第1回『みんなで創る！大石かわべ物語』	160名
		自然観察・野鳥観察会	33名
	7月20日（土）	ふるさとの川（大石川）調査隊	23名
平成26年度	5月25日（日）	第2回『みんなで創る！大石かわべ物語』	150名
		自然観察・野鳥観察会	49名
	8月3日（日）	ふるさとの川（大石川）調査隊	19名



図 7.4-14 第1回「みんなで創る！大石かわべ物語」
 出典：淀川ダム統合管理事務所ホームページ記者発表資料



図 7.4-15 「ふるさとの川（大石川）調査隊」

出典：淀川ダム統合管理事務所ホームページ記者発表資料

表 7.4-5 調査結果

魚 類	その他の生物 (水生昆虫、貝、エビ・カニ类等)
ドンコ (ウキゴリ)	イシガメ
ムギツク	ハグロトンボ
カマツカ	キイロヤマトンボ
オイカワ	アメンボ
ヨシノボリ	ヤゴ
フナ	スジエビ
ギギ	
オヤニラミ	
ブルーギル	
オオクチバス	



図 7.4-16 調査地点

表 7.4-6 指標生物一覧と採取生物

指標生物					
水質階級 I きれいな水	1 ナミウズムシ				
	2 サワガニ			○	
	3 ヒラタカゲロウ類			○	
	4 カワゲラ類				
	5 ヘビトンボ類			○	
	6 ナガレトビケラ類				
	7 ヤマトビケラ類				
	8 フユ類			●	
	9 アミカ類				
	10 ヨコエビ類				
きれいな水 (I) ~ ややきれいな水 (II) (指標としない)	1 ヒゲナガカワトビケラ類			●	
	2 ニンギョウトビケラ類			○	
	3 タニガワカゲロウ類				
	4 テラカゲロウ				
水質階級 II ややきれいな水	1 カワニナ類			○	
	2 コオニヤンマ			○	
	3 コガタシマトビケラ類			○	
	4 オオシマトビケラ				
	5 ヒラタドROMシ類				
	6 ゲンジボタル				
水質階級 III きたない水	1 タニシ類				
	2 シマイシビル				
	3 ミズムシ				
	4 ミズカマキリ				
水質階級 IV 大変きたない水	1 サカマキガイ			○	
	2 エラミズ				
	3 アメリカザリガニ			○	
	4 ユスリカ類				
	5 チョウバエ類				
水質階級の判定	水質階級	I	II	III	IV
	1. ○印と●印の個数	4	2	0	2
	2. ●印の個数	1	1	0	0
	3. 合計 (1欄+2欄)	5	3	0	2
この地点の水質階級は		「きれいな水」です (水質階級 I)			

(3) 瀬田川一斉清掃

平成 19 年から瀬田川水辺協議会主催による「瀬田川クリーン作戦」（瀬田川一斉清掃）が実施されている。参加団体は沿川自治会、NPO 法人瀬田川リバプレン隊、滋賀県ボート協会（各大学、高校ボート部）、ボーイスカウト、瀬田川流域観光協会、漁協等である。

表 7.4-7 瀬田川クリーン作戦実施状況

実施日	参加者数	ごみ収集量
平成 22 年 10 月 24 日(日)	368 人	計 670.6kg
平成 23 年 10 月 23 日(日)	407 人	計 643.3kg
平成 24 年 10 月 28 日(日)	360 人	計 1,210kg
平成 25 年 10 月 27 日(日)	376 人	計 1,160kg
平成 26 年 10 月 26 日(日)	446 人	計 1,200kg
平成 27 年 10 月 27 日(日)	730 人	計 1,200kg



図 7.4-17(1) 瀬田川クリーン作戦

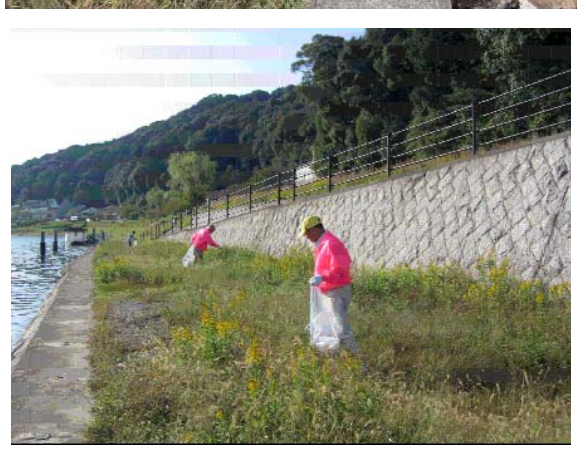
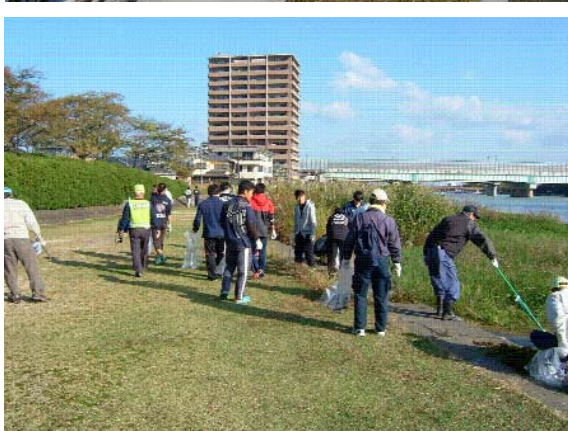


図 7.4-17(2) 瀬田川クリーン作戦
出典：淀川ダム統合管理事務所ホームページ記者発表資料

(4) ダムカード

ダムカードは、平成 19 年度の森と湖に親しむ旬間に全国の国土交通省の直轄ダムや独立行政法人水資源機構の管理するダムで配布が始まったカードであり、天ヶ瀬ダムのダムカードは天ヶ瀬ダム管理支所で配布を行っている。

平成 19 年 7 月からダムカードを配布しており、平成 26 年末までに累計 14, 269 枚配布している。



図 7.4-18 天ヶ瀬ダムのダムカード

表 7.4-8 ダムカード配布数

	H19*	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
配布数	709	811	849	1, 144	1, 991	1, 882	2, 589	4, 294

※H19 年 7 月より配布

(5) 堤頂通路安全対策

天ヶ瀬ダムの堤頂通路は、24 時間開放され、年間約 5 万人の方々が、観光やハイキング、憩いの場として訪れ、宇治の名所の一つであった。その一方で、ダムからの投身自殺者が絶えず、平成 20 年には、7 月から 11 月に 7 名の方が自ら命を絶たれる事態が発生した。そのため、平成 20 年 12 月から平成 21 年 4 月まで、堤頂通路の立入禁止措置を講じた。

その後、専門家の意見を伺いながら堤頂通路安全対策として、高欄の改修、監視員の配置等の安全対策や夜間の青色照明の設置等の様々な取り組みを行い、平成 22 年 4 月より堤頂通路を再開放した。

現在では、これらの様々な安全対策の実施により、自殺者抑制などの安全性向上の効果が現れている。

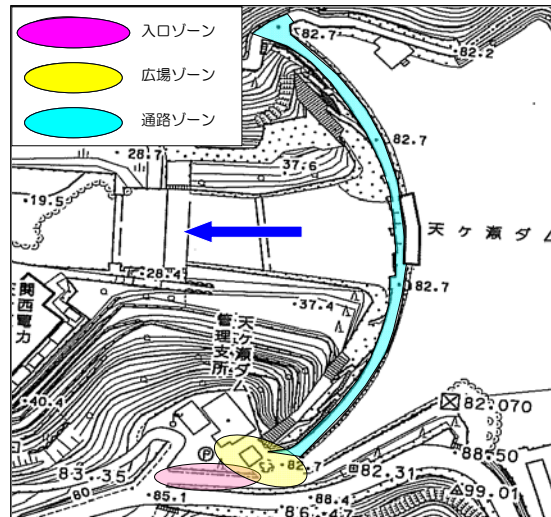
表 7.4-9 天ヶ瀬ダム堤頂通路安全対策の経緯

日付	項目	内容
H20.7.7～H20.11.30	投身自殺の発生(7件)	
H20.11.18～H20.11.27	有識者、関係機関との意見交換	有識者、京都府、宇治市、宇治警察署の関係者と意見交換及び現場視察
H20.12.1	堤頂通路立入禁止	暫定開放に向けた整備のため立入禁止。一部、公衆トイレ付近利用可能。
H20.12.7	第1回天ヶ瀬ダム安全対策検討会	有識者、宇治市及び国とで、検討会を立上げ、情報交換、意見交換及び助言の協議を実施
H21.1.27	第2回天ヶ瀬ダム安全対策検討会	有識者、宇治市及び国とで、取り組み状況の情報提供、意見交換及び助言の協議を実施
H21.2.20	第3回天ヶ瀬ダム安全対策検討会	高欄改修に関して、模型による関係者の検証及び助言の協議を実施 また、ダム通路の開放実施に向けての助言
H20.12～3	堤頂通路暫定開放に向けての整備	・仮設フェンスの設置 ・監視カメラ、センサー、ライトの設置 ・看板設置 等
H21.4.4	堤頂通路暫定開放	監視員を配置し、仮設フェンス設置のもと、午前8時～午後5時迄、時間制限による暫定開放を開始
H21.4～H21.10	安全対策工の詳細設計	専門家の意見を踏まえ、詳細設計を実施
H21.10～H22.3	天ヶ瀬ダム高欄等改修工事 実施	高欄、手摺及び通路部の改修工事
H22.4.1	堤頂通路開放	監視員を配置し、午前8時～午後5時迄、時間制限による本開放を開始

【堤頂通路安全対策の概要】

●ダム構内ゾーン分割

ダム構内を3つのゾーンに分割し、各ゾーンにおいて効果的な対策を行い、全体の安全性向上につなげる。



・入口ゾーン①

監視カメラ設置により意識付けを行うとともに、直接ダムが見えないように目隠しパネルを設置。



・入口ゾーン②

監視員を配置し受付をすることで、不審行動の早期発見を行う。また、直接堤頂通路に向かわないように遠回りで誘導



・広場ゾーン

休憩用の椅子やフラワーポット等で、誘導した来場者を多く留ませる空間整備



・通路ゾーン①

監視員による声かけ、パネル設置による賑わい創出



・通路ゾーン②（夜間）

「落ち着く」・「冷静」というイメージの青色照明。入口部にセンサーを設置し、不法侵入者の早期確認



●高欄部の改修

「越えにくい」・「足を掛けにくい」・「体が回転しにくい」ように、模型実験を行い構造設計し、改修を実施。



7.5 ダム周辺の状況

7.5.1 ダム周辺整備事業の状況

(1) ダム周辺整備の状況

天ヶ瀬ダム周辺では、表 7.5-1 に示す施設の整備がダムサイト周辺と貯水池上流の大石地区で行われており、天ヶ瀬森林公園における散策や大津市都市公園でのスポーツ活動等の利用が図られている。

なお、平成 25 年は新たな施設の整備は行われていない。



図 7.5-1 ダム周辺図

表 7.5-1 ダム周辺施設

施設等名称	内容	規模	事業主体	管理主体
ダム本体	提体付近広場 案内板	総面積： 2,600m ² 1箇所	国 ダム管理者	国
右岸展望広場	展望施設	総面積： 2,000m ² 1箇所	ダム管理者	国
天ヶ瀬森林公園	展望施設 遊歩道 観察小屋、森の家 四阿	総面積： 900,000m ² 2箇所 各1棟	京都府 京都府 京都府	宇治市 宇治市 宇治市
大石緑地スポーツ村	テニスコート 多目的グラウンド 駐車場 ゲートボール場 ローラースケート	総面積： 84,024km ² 13,760m ² 15,386m ² 6,151m ² 1,855m ² 3,130m ²	ダム管理者、大津市 ダム管理者、大津市 ダム管理者、大津市	大津市 大津市

(2) 天ヶ瀬ダム再開発事業

天ヶ瀬ダムにおいては、ダムサイトの左岸側にトンネル式放流設備を設ける天ヶ瀬ダム再開発事業が進められている。

天ヶ瀬ダム再開発事業は、宇治川・淀川の洪水調節のために最低水位時に最大1,140m³/sと琵琶湖後期放流に必要な発電最低水位時に最大1,500m³/sの放流能力を確保するとともに、京都府の水道用水の確保、発電能力の増強を目的としている。



出典：1-25

7.5.2 ダム湖周辺施設の利用状況

(1) ダム及び周辺のイベント等の開催状況

1) 源氏物語宇治十帖スタンプラリー

天ヶ瀬ダムサイトは、宇治市が平成3年度(1991年度)より毎年10月下旬から11月はじめの休日(5日程度)に開催している源氏物語宇治十帖スタンプラリーの健脚コースのスタンプポイントの一つとして活用されている。

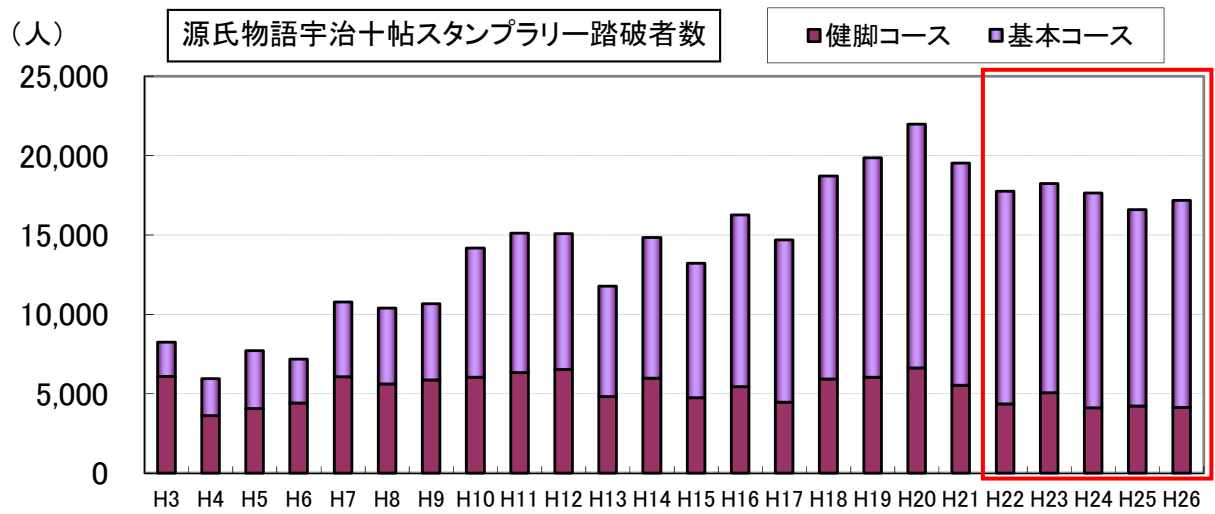
なお、平成25年以降は天ヶ瀬ダム再開発工事が実施されていたことから、安全に配慮し、天ヶ瀬ダムはコースに含まれていない。



図 7.5-2 源氏物語宇治十帖スタンプラリーパンフレット



図 7.5-3 源氏物語宇治十帖スタンプラリーの様子



※1) 天ヶ瀬ダムがスタンプポイントとなっているのは健脚コースのみ

※2) 平成 25 年以降は、天ヶ瀬ダム再開発工事のため天ヶ瀬ダムはコースに含まれていない

図 7.5-4 源氏物語宇治十帖スタンプラリー踏破者数

出典：資料 7-4

2) 国際大ダム会議 2012 年京都大会テクニカルツアー

国際大ダム会議は、1928 年創設の民間国際団体（本部：パリ、加盟国：95 カ国）であり、ダム関係土木構造物の計画、設計、施工、保守及び運用に関する技術について各種委員会を設置し、調査研究を行っている。平成 24 年には年次例会及び大会が京都で開催され、これに合わせ、6 月 2 日（土）及び 3 日（日）に国際大ダム会議 2012 年京都大会テクニカルツアーが開催された。テクニカルツアーコースに設定されていた天ヶ瀬ダムには、2 日間で約 500 名の世界各国のダム研究者が訪れた。



図 7.5-5 テクニカルツアー（天ヶ瀬ダム）の様子

(2) 近隣の観光施設等

1) 観光入り込み客数

宇治市における観光入り込み客数を表 7.5-2 に示す。

表 7.5-2 観光入り込み客数（宇治市）

（単位：千人）

区分	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
平等院	696									
黄檗山萬福寺	63	1,54	1,64	1,75	2,08	1,94	1,84	1,85	1,72	1,09
宇治神社	365	6	2	8	0	2	9	3	6	9
宇治上神社	53									
府立宇治公園	424	541	538	630	698					
さくら祭	115	104	85	130	145	100	155		125	32
鵜飼	5	5	5	6	5					
県（あがた）祭	145	130	110	115	80		125	130	105	105
花火大会	190	190	190	220	220	150	140	170	210	210
茶祭	18	15	12	15	12					
源氏ろまん	5	2	6	6	6					
宇治十帖スタンプラリー	41	37	47	50	55					
源氏物語ミュージアム	85	83	90	113	205	122	99	110	99	74

出典：資料 7-5

2) 近隣の観光イベント等の開催

水源地域では、表 7.5-3 に示す観光イベントが行われている。

表 7.5-3 観光イベント一覧

	大津市	宇治市	宇治田原町
春	<p>おおつ花フェスタ 大津っ子まつり 献饂供御人行列</p>	<p>開山（隠元禪師）忌 宇治川さくらまつり 炭山陶器まつり 宇治川まつり（宇治神社） 市民茶摘みの集い 宇治川写生大会（宇治川河畔一帯） 茶摘み（市内各茶園） 宇治神社神幸祭（旧宇治町一帯） 全国煎茶道大会（黄檗山萬福寺） 宇治川魚釣大会（宇治川一帯） 頼政忌（平等院）</p>	<p>春番茶刈り 猿丸神社春期大祭 茶宗明春期大祭 さくら祭り 茶摘み 町茶品評会</p>
夏	<p>みずほ祭り ウチョウラン展示会 漏刻祭 びわ湖大津館の西洋式回遊庭園 公私立保育園の写真展 ROCK ON OTSU 大津キャビック展 びわ湖大津なぎさ音楽祭 学区対抗ビーチバレーボール大会 びわ湖大津サマーフェスタ 花器品評会 堅田湖族まつり 船幸祭 米寿写真展 ゆかた祭り</p>	<p>鶴飼 ライブジャック 大幣神事（あがた神社） 宇治神社還幸祭（旧宇治町一帯） 七夕まつり（宇治神社） 千日参り（三室戸寺） 宇治川花火大会 県まつり</p>	<p>ホテル保護パトロール 住民プール開き にりこみ囃子 ふるさとまつり（花火大会）</p>
秋	<p>白馬国際芸術祭 大津・京橋教室作品展 環境パートナーシップ交流会 大津祭 大津なぎさオータムフェスタ 近江神社一流鎧馬 びわ湖車いすテニストーナメント大会 我が町ー堅田の橋 展示会 大津市勤労青少年ホームレイキーフェスタ 秋のライトアップー紅葉の門前町坂本 比叡山延暦寺の紅葉 町屋 まちなか 博覧会</p>	<p>茶まつり 観月茶会 源氏ろまん（紫式部文学賞、宇治大田楽まつり等） 黄檗山月見の会（黄檗山萬福寺） 開山（道元禪師）忌（興聖寺） 製茶記念日・献茶祭（宇治神社ほか） 宇治茶まつり（宇治橋・中の島付近） 百味の御食（白山神社） 源氏ろまん 宇治十帖スタンプラリー</p>	<p>大滝大明神祭 田原祭（三社祭） ふるさとまつり（観月茶会） 福祉バザー 柿屋建て</p>
冬	<p>大津の子ども総合美術館 坂本ひな人形展</p>	<p>除夜（鐘突）（平等院ほか） 初あがたまつり（あがた神社） 紅葉講春季大会 節分祭（宇治神社ほか） 宇治市観光写真コンクール 宇治川マラソン 関白忌（平等院） 山宣祭（善法墓地）</p>	<p>出初式 高尾の緑たたき 神縄座</p>

7.6 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

天ヶ瀬ダム（鳳凰湖）におけるダム湖利用実態調査によると、近年では毎年約 35 万人の利用者が訪れている。利用者は主に湖畔に訪れ、目的は釣り、スポーツ、野外活動および散策である。近年においては毎年約 35 万人の利用者が訪れており、目的は主にスポーツ、野外活動および散策となっている。平成 21 年度以降は減少傾向にある。

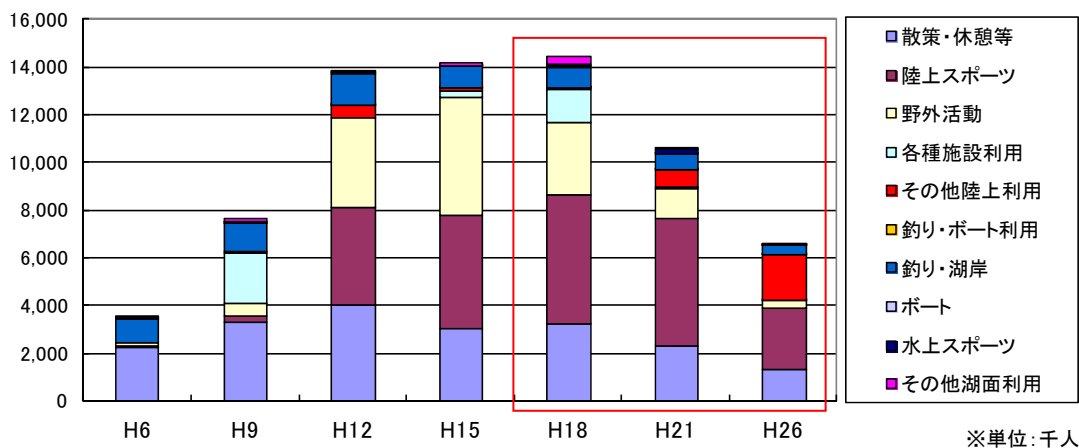


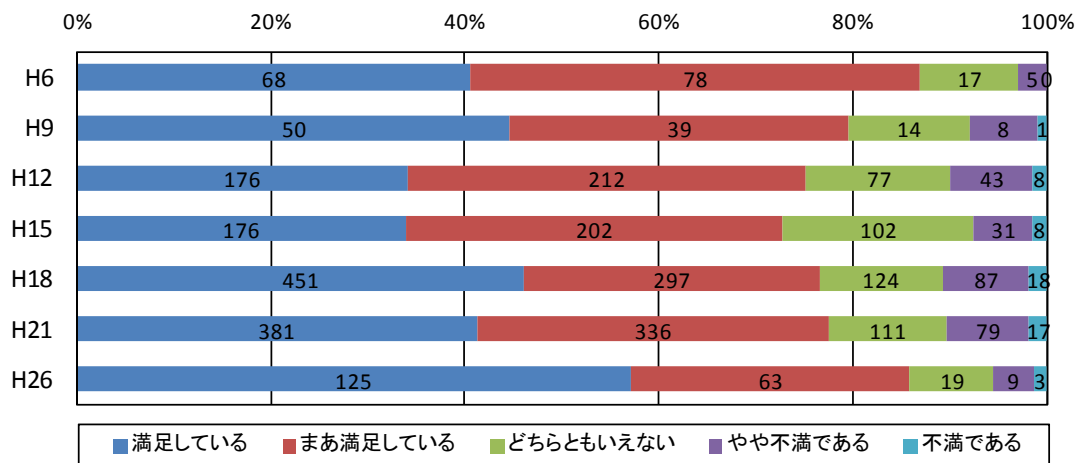
図 7.6-1 ダム湖利用実態調査結果

所別 利用場		平成3年度		平成6年度		平成9年度		平成12年度		平成15年度		平成18年度		平成21年度		平成26年度	
		数値	割合	数値	割合	数値	割合	数値	割合	数値	割合	数値	割合	数値	割合	数値	割合
湖面		28.3	(4.2%)	35.9	(7.5%)	62.6	(17.7%)	37.6	(10.9%)	21.9	(6.2%)	29.6	(7.8%)	23.2	(7.4%)	23.5	(6.1%)
湖畔		621.7	(92.4%)	423.5	(88.2%)	290.4	(82.3%)	256.1	(74.0%)	281.5	(80.2%)	321.8	(85.0%)	267.2	(85.2%)	328.7	(85.9%)
ダム		23.1	(3.4%)	20.8	(4.3%)	0.0	(0.0%)	52.3	(15.1%)	47.4	(13.5%)	27.0	(7.1%)	23.1	(7.4%)	30.6	(8.0%)
合計		673.1		480.2		353.0		346.0		350.8		378.5		313.6		382.8	

出典：資料 1-18

平成 21 年度の結果については、平成 18 年度ダム湖利用実態調査による手法にて試算した値（速報値）である。なおダム湖利用実態調査は、「河川水辺の国勢調査〔ダム湖版〕（国土交通省 河川局 河川管理課）」により、平成 3 年度(1991 年度)から 3 年毎に実施しており、四季を通じた休日 5 日、平日 2 日の合計 7 日の現地調査(利用者アンケート調査：直接ヒアリング、利用者カウント調査)を実施し、年間利用者数の推定を行うものである。

天ヶ瀬ダムを利用した感想を聞いた結果では、「満足している」「まあ満足している」が約 85%を占めている。なお、個別の感想については、表 7.6-1 に示した。



注：図中の数字は回答者数

図 7.6-2 水辺の国勢調査（ダム湖版）アンケート結果

表 7.6-1 利用者の感想（平成 21 年度調査結果）

ブロック	代表的な感想	
	良い点	悪い点
1 ダム直下流	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ等施設も整っていてよい。 ・涼みによい。特に右岸側。 ・静かで景色も良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バーベキュー等の利用者のマナーが悪い。 ・トイレが右岸側に設置されていない。 ・川岸のどこかに自販機がほしい。
2 ダムサイト	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史を感じる発電所が良かった。 ・自然が多いので満足している。 ・ダムが立派。アーチ形のダムは全国に数が少なく珍しい。 ・ダムの放流や、桜の季節の景観などが楽しめる。 ・展望台からの景色が良く満足している。 ・人が少なくスペースが広くあり満足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工事中であり、行ける場所が限られてしまう。 ・道が十分に整備されていない。
3 ダム湖	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の景観が良い。 	—
4 大石	<ul style="list-style-type: none"> ・広いので散歩が楽しみで風景もよい。 ・水質が良く子供が楽しめる。 ・地元から来やすい。子供を連れてきやすい。 ・自然なところが多くて良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雨の日の犬の散歩が大変である。
5 大石運動公園	<ul style="list-style-type: none"> ・広い駐車場があり、ゆっくりとできるので利用しやすい。 ・毎日朝は空気が良くジョギングができる場所。 ・テニスコートなどの設備が整っていて大変満足。 ・風景等が良い場所で知り合いと交流ができる場所。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大雨の後のゴミの処理が不完全。 ・カワセミがたくさんいたのに、工事を境にいなくなった。 ・湖に中洲ができており、住民も税金の無駄遣いしていると指摘している。
6 曾東緑地	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドが広く、整備されていて良い。施設も無料開放で利用している。 ・トイレ、駐車場もあり便利。 ・子供が安心して遊べる。犬も連れてこれるのが良い。 ・平日は比較的すいていて、整備も良くされていて良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工事箇所（崖崩れ）を早く整備してほしい。 ・ゴミ、路上駐車、山菜の無断採取など、利用者のマナーが悪い。 ・駐車場が足りない。 ・路面状態が悪く走りにくい。

出典：資料 7-11

7.7 まとめ

- 天ヶ瀬ダムは、宇治市の観光の中心から近く、天ヶ瀬森林公園も隣接し、散策の拠点等として多数の人が訪れている。
- 源氏物語宇治十帖スタンプラリーや小中学校の総合学習や職場体験の場としても利用されている。
- 天ヶ瀬ダムの周辺は、天ヶ瀬森林公園や大津市都市公園が整備され、散策やスポーツ活動の拠点として、多数の利用者がある。
- 天ヶ瀬ダム堤頂通路は改修等を行い、安全対策に取り組んでいる。
- 天ヶ瀬ダムは、地域住民の散策の場や源氏物語宇治十帖スタンプラリーの拠点、小中学校の総合学習・職場体験の場等に利用されており、水源地域の活性化に寄与している。
- 一方、水源地域の活性化や地域との連携の視点から、以下のような課題を有している。
 - ・貯水池沿いの道路は幅員が狭く大型車等の通過交通量が多い。
 - ・不法投棄や上流から流下してくるゴミが多く景観を損ねている。
 - ・天ヶ瀬ダムには来場者用の駐車スペースが確保されておらず、バス路線などの公共交通機関もないため、利便性に欠ける。
- 今後の方針として、水源地域の活性化を図れるよう、今後も引き続き、地域とともに水源地域ビジョンの実施を推進していく。また、水源地域と連携して、今後も総合学習などの場を提供していく。

7.8 文献リスト

天ヶ瀬ダムの水源地域動態にかかわる評価のため、以下の資料を収集整理した。

表 7.8-1 水源地域動態に使用した文献・資料リスト

No.	報告書またはデータ名	発行者	発行年月	箇所
7-1	入場者数合計表	淀川ダム統合管理事務所	平成14年～ 平成25年	ダム見学者数
7-2	淀川ダム統合管理事務所ホームページ記者発表資料	淀川ダム統合管理事務所	平成25年	職場体験
7-3	職場体験学習実施状況一覧表	淀川ダム統合管理事務所	平成25年	職場体験
7-4	国勢調査結果 (URL: http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/index.htm)	総務省統計局	昭和30年～ 平成22年 (5年毎)	水源地域センサス (人口、産業別就業人口)
7-5	新聞記事(淀川ダム統合管理事務所スクラップ集)	京都新聞 洛南タイムス	平成25年	地域とダムとの関わり